令和5年度　日野市立日野第一小学校経営重点計画　　自己評価シート　　令和6年3月公表

★学校教育目標　〇かしこい子　〇やさしい子　〇元気な子

★目指す学校像（ビジョン）

【めざす児童像】
①問いを大切にして、自分たちなりの方法で、自分たちなりの答えにたどりつける子
②よりよく生きるために、自分を認め、相手を認めることができる子
③心も体も健康で、やりたいことがあり、それができる状態の子

【めざす学校像】
①認め合い、学び合い、共に育つ学校　②笑顔と元気、幸せがあふれる学校
③安心・安全で、整然とした美しい学校　④対話し、協働していく信頼される学校

【めざす教師像】
①子供一人一人を大切にする、感性豊かな教職員　②教育公務員としての自覚をもち、保護者や地域の方に信頼され、連携・協力し合える教職員　③指導力の向上を目指し、学び続ける教職員　④心と体の健康を保つことのできる教職員

★重点計画の概要

・いのち…人権尊重の精神を基調とする「すべてのいのちを守り、育む」教育の推進
・学び…児童自ら課題を見付け、協働して深め合い課題を解決していく「一人一人を大切にした多様な学び」の創造
・地域…学校、家庭、地域が連携した「地域をステージにした教育活動」の推進
・特別支援教育…インクルーシブ教育の充実

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準 評価点	取組指標	評価点	成果指標	学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
いのち	人権尊重の精神を基調とし、「自分の命は自分で守る」ことのできる児童の育成。	〇自分を大切にし、相手も大切にできる感性を育む豊かな心を育成する。 〇子供の安全・安心を守る生活指導の充実を図るために、意図的、組織的にサポート体制を構築する。	・「考え、議論する道徳教育」の実践を通して道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 ・集団生活上のトラブルを解決する体験を重視し、主体的に解決していく経験の中から自己理解、他者理解を深めさせる。 ・SDGsを捉えた教育活動に取り組む中で、環境や生命尊重への関心、協力、感性、実行力を高める取組を実施する。	4	4　「全ての教員」が計画に基づき、豊かな心の育成に取り組んだ。 3　「80%の教員」が取り組んだ。 2　「70%の教員」が取り組んだ。 1　取り組んだ教員が「70%未満」。	4	4　児童・保護者アンケートで90%以上の肯定的な評価を得た。 3　80%以上の肯定的な評価を得た。 2　70%以上の肯定的な評価を得た。 1　肯定的な評価は70%未満であった。	・「いのちの尊さ」は一番大切なこと。自分を大切にして、他人をおもいやる心は幼い時から培われるものである。 「いじめ」にもつながっていくので、これからも道徳教育の中で子供たちには自分で考えながら学んでいってほしい。 ・児童の回答の中で学校に行くのが「楽しい」、「すごく楽しい」が合計で80%以上でありとても安心した。しかし楽しくないと思っている子が18%いるのでその子たちのケアをしてあげないといけない。 ・地域でのイベントで児童に接する中で、高齢者との関わりもしっかりと出来ており、集団の中でのルールを守ることに対しても他者理解の下、良く出来ていると感じた。 ・”集団生活上のトラブルを解決する体験”は、子供たちが社会に出たときに大いに役に立ち、また相手の立場を考える精神は、民主主義の根本でもある。その実践やいじめ対策が行き届いていることは各調査・評価から確認できたので、領域「いのち」については最高評価とした。	・全教育活動を通じて道徳教育に取り組み、要である道徳科の授業の改善を図ってきた。次年度は道徳科で校内研究に取り組み、子供の心を耕し、よりよく生きようとする児童を育んでいく。 ・発達段階に応じて、集団生活上のトラブルへの対応を工夫している。教員が介入するタイミングや場面を見極め、できるだけ児童の話し合いで解決させていくことで、自己理解や他者理解を深めさせていく。
			・生活科・総合的学習の時間、体育（保健）を通して、交通安全、防災教育、衛生教育など、自他のいのちを尊重する取組を実施する。 ・第一小学校いじめ防止基本方針に、校内いじめ対策委員会を中心に、いじめ防止の取組を徹底する。 ・校内委員会や特別支援コーディネーター・スクールカウンセラー、保護者等と連携し組織を活用して、いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期解決を図る。	4	4　「全ての教員」が計画に基づき、いじめや不登校への対策に取り組んだ。 3　「80%の教員」が取り組んだ。 2　「70%の教員」が取り組んだ。 1　取り組んだ教員が「70%未満」。	3	4　児童・保護者アンケートで90%以上の肯定的な評価を得た。 3　80%以上の肯定的な評価を得た。 2　70%以上の肯定的な評価を得た。 1　肯定的な評価は70%未満であった。	・一小では、夏期休業中にPTA主催で防災訓練を行っており、教員参加型で行っているのは高く評価したい。この様なことが有事に役立つと思う。 ・いじめの未然防止等にすべての教員が取り組んでいることが分かった。意識の高さを感じた。	・不登校傾向のある児童が増加した。安心して登校できる環境づくり（学級経営、ふらっとルーム）に今後も取組んでいく。 ・毎月の避難訓練により、児童は正しい避難行動をとり、素早く避難することができるようになっている。「予告なし」や「余震避難」等の訓練をし、臨機応変な対応ができるようにした。 ・いじめの未然防止、早期発見・早期対応ができるように校内で情報共有に努めた。道徳教育等で心を育む等、今後も引き続き全教職員でいじめ防止に取り組んでいく。
学び	児童自ら課題を見付け、協働して学びを深め、課題を解決していく「一人一人を大切にした多様な学び」を創造する。	〇個に応じた指導や多様な学び方を設定した授業で、一人一人の学びの充実させる。 〇主体的に運動する習慣を身に付けさせ生涯スポーツの基盤を築くとともに、食育を通して健やかな体づくりを実現する。	・学力調査等の分析を基に、習熟度別指導やグループ学習・個別学習等の学習形態を工夫し基礎的基本的学力の定着を図る。 ・身に付けさせる力を明確にした授業の工夫を行い、授業改善を行う。 ・タブレット等ICT機器の効果的な活用を通して、一人一人が理解できる授業づくりを推進するとともに、各教科等において「ミライシード」を活用し、基本的学習事項の定着と、応用力を養う。	3	4　「全ての教員」が計画に基づき、一人一人の学びの充実の実現に取り組んだ。 3　「80%の教員」が取り組んだ。 2　「70%の教員」が取り組んだ。 1　取り組んだ教員が「70%未満」。	3	4　児童・保護者アンケートで90%以上の肯定的な評価を得た。 3　80%以上の肯定的な評価を得た。 2　70%以上の肯定的な評価を得た。 1　肯定的な評価は70%未満であった。	・一人一人の個々の能力を引きだすために、先生方はいつも試行錯誤していると思う。自分の考えを自分の言葉で伝えることがこれからも大切だと思う。 ・児童が勉強も運動も楽しいという意見が80%近くあり良かった。今ではパソコン、タブレットもうまく使って学習しており時代にあった学習もあることがすごく良いと感じた。 ・多様な学びの設定、ICT機器の効果的な活用について各調査・評価から高い達成度に達していることを確認した。	・習熟度別、グループ学習に日常的に取り組んできた。教科を広げたり、活用場面を増やしたりできるように考えていく。 ・ICTの使い方や多様な、学習に苦手意識をもつ児童への対応策や適切な活用場面の精査などを行い授業改善に取り組んでいく。
			・実技研修等による体育授業の改善、体力テストをもとにした体力向上の取組等を通して、健康な生活を送ることのできる力を育む。 ・栄養士と協働し、全学年で食育及び栄養に関する授業を行い、生活習慣確立の実践を推進する。	2	4　「全ての教員」が計画に基づき、健やかな体づくりの実現に取り組んだ。 3　「80%の教員」が取り組んだ。 2　「70%の教員」が取り組んだ。 1　取り組んだ教員が「70%未満」。	3	4　児童・保護者アンケートで90%以上の肯定的な評価を得た。 3　80%以上の肯定的な評価を得た。 2　70%以上の肯定的な評価を得た。 1　肯定的な評価は70%未満であった。	・体育教育・食育については保護者・児童への調査結果が良好である。専門性が高く、課題もあると思われる分野なので、教育委員会として全体的に対応して行くことが必要なのではないだろうか。 ・”勉強が楽しくない”、(ICT活用の)勉強が分からない”、”運動が好きでない”という意識の児童がそれぞれ2割弱見受けられるところは、今後の課題と思われる。 ・早寝早起、朝ごはんをしっかり食べているという質問に対して9%の子がほとんどしていないという回答がすこし多いかなと感じた。家庭の事情もあると思うが、何か手助けできることがあればしてあげたい。 体を動かすことがすごく好きな児童が５６％で喜ばしい。教員が子供とよく体を動かしている様子が見受けられる。	・持久走や縄跳び週間を設定したり、休み時間には外遊びを励行するなどして、児童は体を動かすことができている。 ・体力テストの分析を生かした授業改善に次年度も継続して取り組む。 ・高学年の家庭科で、栄養士と連携して食育の授業を行った。低中学年でも題材を工夫して積極的に行っていきたい。
地域	学校、家庭、地域が連携した「地域をステージにした教育活動」を推進する。	〇地域の教育的資源を学校の教育活動に生かすなど、自ら地域や社会と関わろうとする態度を育成する。 〇「つながり」を大切にした幼保小中との連携教育を充実させる。	・学校支援コーディネーターと連携し、地域の施設や人材を活用した授業を全学年で実施する。 ・教育方針や教育活動、150周年記念の行事関連等をホームページ、Home&School等で発信する。	2	4　「全ての教員」が計画に基づき、自ら地域や社会と関わろうとする態度の育成に取り組んだ。 3　「80%の教員」が取り組んだ。 2　「70%の教員」が取り組んだ。 1　取り組んだ教員が「70%未満」。	2	4　児童・保護者アンケートで90%以上の肯定的な評価を得た。 3　80%以上の肯定的な評価を得た。 2　70%以上の肯定的な評価を得た。 1　肯定的な評価は70%未満であった。	・150周年行事ではダンディーKaiをはじめとし、ＰＴＡ、地域の力がまとまり、よい周年行事だったと思う。 ・地域の方々や児童館、図書館など学校の先生以外の大人とふれあうことも大事だと思う。 ・地域の人材、資源を活用し郷土愛を身に付けさせる活動は良いのではと思う。150周年行事は地域にも開かれた素晴らしい事業でした。 ・田植えや稲刈り等、地域の人と関わることによって、学校生活が学校内だけではないんだ、多くの人々に支えられて学校生活が豊かになるんだということを大人が伝えていくことが大切だと思うし、児童たちに肌で感じてほしいと思う。	・１５０周年記念行事や、総合的な学習の時間、生活科や社会科などの学習で地域の方々と協力して取り組み、貴重な体験や新たな気付きがあった。ホームページやお便りなどで、他の学年や保護者、地域により積極的に発信し、伝えていく。 ・児童と「地域の人・物」とのて合わせ方を工夫し、関わることの良さをさらに感じられるようにする。 ・地域にある図書館や児童館等と連携をし、公共施設やそこにある情報を活用し、児童の学びを深めていけるようにする。
			・地域の幼稚園・保育園との交流活動や情報交換を行ったり、小学校スタートカリキュラムを実施したりする。 ・合同引取訓練、中学出前授業、小中交流会、入学予定児童の引継ぎ等、9年間の学びの連続性を意識した滑らかな接続を図る。	1	4　「全ての教員」が計画に基づき、幼保小中との連携教育の充実に取り組んだ。 3　「80%の教員」が取り組んだ。 2　「70%の教員」が取り組んだ。 1　取り組んだ教員が「70%未満」。	4	4　児童・保護者アンケートで90%以上の肯定的な評価を得た。 3　80%以上の肯定的な評価を得た。 2　70%以上の肯定的な評価を得た。 1　肯定的な評価は70%未満であった。	・いろいろな地域の大人とちゃんと話のできる子が増えてくれると良い。 ・地域の活動「育成会」「ダンディ-Kai」「自治会」等、イベントに参加することによって学校内外の人たちと接することができるので、コミュニケーション力や視野を広げる意味でもぜひ、経験してほしいと思う。先生方には声掛けをお願いしたい。 ・他の領域が良好なので、「地域」の取組指標の低評価が目立つ結果となった。社会教育の視点からみても、学校教育と地域のコーディネートは大きな課題なので、構造的な問題があるかもしれない。わずかな時間でも良いので、先生方と社会教育施設職員との情報交換などを行うことで、地域との協力体制が充実できるのではないか。 ・体験授業や行事などの誘いがある。日常的に０歳児から校庭を活用させてもらい、児童から声掛けがあり交流が見られる。	・地域の保育園や幼稚園との交流や情報交換を継続して行っていることで、関係が深まり、入学する児童に早期から適切な対応が取れるようになっている。また、スタートカリキュラムを取り入れることで、登校渋りもほとんどなく小学校への円滑な移行ができている。 ・小中交流会で近隣小学校や中学校と情報共有を行えた。中学校教員の派遣授業や育成会の小中交流会は、中学校進学に向けた児童の不安の解消に役立っている。 ・１年や６年の担任以外は小中交流の良さが実感しにくく評価が低くなった。交流の様子を全体で共有できるようにする。
特別支援教育	インクルーシブ教育の概念に基づいた特別支援教育の推進	〇全ての児童に分かる喜びを体感させる。	・日野スタンダードを基盤に、ユニバーサルデザインの考え方による授業を実践する。 ・さくら組やステップ教室といった校内資源の活用やエール等の外部機関との連携を図る。 ・校内支援委員会を核として児童のニーズを共有し「校内フリースクール」等、個に応じた支援により問題行動の抑制を図る。 ・お便りやホームページ、Home&School等で特別支援教育の様子や考え方を保護者・地域へ発信する。	3	4　「全ての教員」が計画に基づき、全ての児童が分かる喜びを体感できる授業の実践に取り組んだ。 3　「80%の教員」が取り組んだ。 2　「70%の教員」が取り組んだ。 1　取り組んだ教員が「70%未満」。	3	4　児童・保護者アンケートで90%以上の肯定的な評価を得た。 3　80%以上の肯定的な評価を得た。 2　70%以上の肯定的な評価を得た。 1　肯定的な評価は70%未満であった。	・「ふらっとルーム」が設置せれた事はすばらしと思う。(子ども達の居場所としてのスペースがあるという安心感) ・さくら組やステップ教室と交流がとれていることを150周年記念集会のおはやしを見て感じることができた。お互い尊重しあって生活してほしい。 ・インクルーシブ教育の概念に基づき、さくら組やステップ教室の児童に対し差別なく対応がなされていると感じた。授業内容については不明。 ・概ね高い達成度に達しているが、児童の意識の中で「さくら組、ステップ教室」を”知らない”が35%なので、今後、さらに充実していくべき領域と思われる。	・コロナ禍では交流活動が行えず、児童の理解が十分でないことにつながっている。今年度も感染症の流行期が何度かあり、計画どおりに進まなかった。日常の交流が大切であるため、今後も引き続き児童への教育効果が高い部分を中心に交流を深めていく。 ・ユニバーサルデザインによる授業実践に引き続き取り組み、誰にでも分かりやすい授業づくりを行っていく。
その他	・３Fの雨漏りの箇所がとても気になります。(内部腐食などがないか･･･)建て替えの予算が決まったとは聞いていますが、進行状況など発表できるものだけでも随時お知らせがあればちょっと安心します。 ・体育館のモップがとても汚なくて体育館清掃する時に床がきれいにならなくて少し困っています。モップの管理をきちんとすることが徹底できるといいですね。多くの人が利用するので、管理も難しいと思いますが、体育館がほこりっぽいことが多いので、健康面においても少し心配になります。								・毎月の安全点検を徹底し、危険個所があればすぐに対応する。建て替えまでの期間、児童が安全に生活できるように努める。

※評価指標・評価基準は、２の段階を現状としています。